

## 英語科

# 中学校英語科における身近な題材を用いた単元の開発

—協働的に学ぶ態度の育成を目指して—

西本 圭 織

## A Study on Creating a Lesson Plan Using Familiar Materials in English Education -Aimed for Developing Attitude towards Collaborative Learning-

Kaori Nishimoto

The purpose of this study is to create a lesson plan using teaching materials which help students to get interested and to work autonomously. As the appropriate material for the purpose, the researcher chose students' own school life as a topic. Students chose one situation and write a description in English for an assistant language teacher (=ALT), using a picture of the situation. According to the reflection cards of students, 90% of them thought the activity in groups positively. They presented the description to ALT, showing the picture. Two students changed their thought of speaking and liked speaking activities. Therefore, using familiar material lead students to get interested, and thus, choosing school life as a topic worked effectively. (p.221-226).

### 1 はじめに

近年、グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力はより一層重視されてきており、日本の英語教育も内容の抜本的な質の向上が求められてきた。

2016年12月の中央教育審議会答申<sup>1)</sup>では、資質・能力の三つの柱を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」と整理され、この三つの資質・能力を確実に身に付けられるように指導の改善・充実が必要とされている。

また、外国語教育における学習課程では、次のような事項が大切であると示された。

生徒が

⑦設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解する

⑧目的に応じて情報や意見などを発信するま

での方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる

⑨対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う

⑩言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行うというプロセスを経ることで、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動につなげ、思考力・判断力・表現力等を高めていったりする

しかし、このように資質・能力の育成を柱にする教育の流れがある一方で、生徒の英語学習に対する意欲に関しては課題が多くある。学習集団の中には、意欲的で主体的に学習する生徒が多くいる一方で、英語学習につまずき、授業に意欲を持って取り組めない生徒もいる。これは多くの学校が抱えている課題である。

そこで、今回の単元開発をするにあたり、前述

の三つの資質・能力を育成するための「主体的な学び」を促すためには、生徒が実生活に根差した具体的な題材を使えば生徒が意欲的に取り組めるのではないかと考え、学習内容を設定した。

本学校園では、外国語活動・外国語科のめざす子ども像<sup>2)</sup>として、「外国語や外国の文化に関心を抱き、理解しようとするとともに、様々な人と積極的にコミュニケーションを取ろうとする子ども」と設定している。また、本学校園で研究開発を行っている新領域「希望（のぞみ）」を中心に統一して設定している三つの通教科的能力と教科の本質に根差した資質・能力を表1に示すように関連付けをし、育成を図っている。

表1 通教科的能力と教科の本質に根差した資質・能力の関係

通教科的能力	教科の本質に根差した資質・能力
キャリアプランニング能力	自己存在感・自己有用感
人間関係形成・社会形成能力	コミュニケーション力
課題対応能力	協働的問題解決力

## 2 研究の方法と実践事例

研究の方法としては、単元の終末時に身近な題材を用いた表現活動を行い、質問紙と自己評価カードの記述、成果物から題材の内容と課題の設定が生徒に与えた影響を図ることとする。また、単元の終末に行う表現活動では、三つの資質・能力のうち、「協働的問題解決力」に重点をおくものとし、そのゴールに向けた単元構成を行った。

### (1) 単元名

SUNSHINE ENGLISH COURSE 1  
PROGRAM 9 A New Year's Visit

### (2) 実施時期

平成28年11月～12月

### (3) 対象学年及び人数

広島大学附属三原中学校第1学年2組 40名を対象とした

### (4) 単元について

本単元のねらいは、現在進行形を用いて、絵や写真について説明できるようになることである。本文の内容は、元日に、日本に滞在中のジムさん一家が妻の愛子さんの両親の家に年始のあいさつに行く準備をしているときに電話が鳴り、一家全員がそれぞれ忙しく何かしていて、だれも電話に出られない状況から始まる。全て対話形式で進み、家族内での日常的なやりとりの中で、各々が現在進行形を用いて状況を説明しており、親近感を覚える内容である。また、言語材料として単元を一貫して現在進行形を扱い、この学習により自分の状況や他者の状況を述べられるようになったり、尋ねたりすることができるようになる。

### (5) 単元目標

- ・絵や写真について分かりやすく話すことができるようにする
- ・絵や写真について分かりやすい説明文が書けるようにする
- ・間違うことを恐れず、積極的に自分の考えを話すことができるようにする
- ・現在進行形を用いた文構造を理解することができるようにする

### (6) 単元構成（全10時間）

第1次	現在進行形の肯定文の用法を理解し、活用する（2時間） ①現在進行形の肯定文の用法を理解し、カルタ取りをする ②教科書本文の挿絵を用いて、会話文を作る
第2次	現在進行形の疑問文の用法を理解し、活用する（2時間） ①現在進行形の疑問文の用法を理解し、絵に描かれた人物について質問し合う ②教科書本文の内容を読み取り、ロールプレイをする
第3次	疑問詞を含む現在進行形の疑問文の用法を理解し、活用する（2時間） ①疑問詞を含む現在進行形の用法を理解し、ジェスチャーゲームをする ②教科書本文の内容を読み取り、ロールプレイをする

第4次	現在進行形を使って学校生活を描写し、紹介文をつくる（3時間）
	①学校生活の中で書きたい場面をグループごとに決める
	②相手に伝わる英文について考え、グループごとに英作文する
	③他グループとシェアリングし、発表する

### (7) 対象生徒及び学級の状況について

本学級の生徒 40 名を対象に英語の学習に関する調査（平成 28 年 9 月実施）を行った。英語の学習が好きだとの回答は 80%，好きでないとの回答は 20%であった。これと併せて 4 技能に対する調査も行ったところ、英語の学習が好きでないと答えた生徒 8 人の生徒のうち、6 人の生徒が 4 技能の中で「話すこと」「読むこと」に関して苦手意識を感じていることが分かった。「話すこと」に関しては、「分からないから」と理解に悩んでいる生徒もいれば、「少し難しいけど、話すことは必要だと思う」という前向きなコメントも見られた。

また、集団づくりとしては、他者と英語を用いてコミュニケーションすることを通して、互いの発言を尊重しあい、全体場で共有することで、それぞれの学びが深まっていく学習集団づくりをめざしている。本学級は、決められたペアやグループで活動するとき、概ね男女分け隔てなくコミュニケーションとることができ、活気のあるクラスである。

### (8) 指導方法の工夫

生徒全員が積極的に学ぶ姿勢を持てるようにするために、活動への動機付けを高める必要がある。そのための手立てとして、パワーポイントなどを使って写真・絵・動画を多く用いた授業を展開し、使用する資料も自分たちの生活に関する話題にする。

言語活動に関しては、教科書の本文を読む前の段階で、登場する人物とその行動について絵を見て表現したり、会話を聞いて状況を説明させたりして教科書内容を有効に活用する。

現在進行形は be 動詞を落としがちであるので、その点も留意して指導を行う。

また、ペア・グループ・クラスで意見を交換しながらひとつのものを作り上げていく課題を設定し、相互にフィードバックを行うことで、学びを共有し深める態度を育てることをねらう。

### (9) 授業の実際

本単元のゴールとした ALT への学校紹介に向けて、次のような手立てを行っていった。

#### ①絵から会話文を作る活動

第 1 次の教科書本文内容の読解では、教科書の挿絵から会話文を想像して作る活動を行った。それまでに現在進行形の用法や新出単語のインプットをインプットシート（図 1）、ワークシート、スクリーンを使った一斉指導などでスパイラルに練習し、活動に入った。インプットシートについては、後日テストを行った。

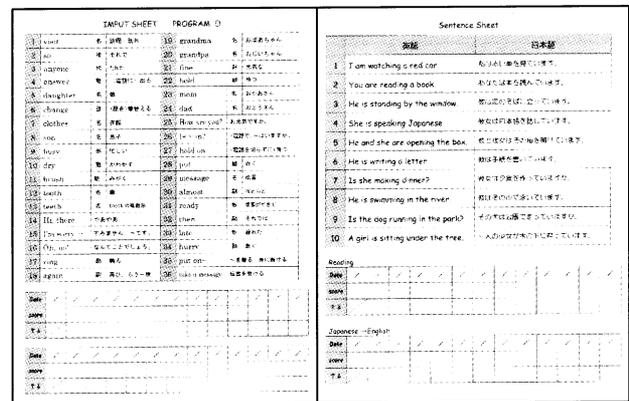


図 1 帯学習で使用したインプットシート

そして、図 2 に示すようなワークシートを作成し、文頭の語をヒントに与えるなどしながら、自由に会話文を考えていった。生徒は前時に学習した～ing の表現や新出単語を使ったり、How about you? や can を使ったりしながら、それぞれ工夫した英文を書くことができていた。

各々で会話文を考えたとには、それをペアで共有し、練習を行い、発表を行った。ペアで共有する際には、相手の文の良さや間違いに気づき、伝える姿も見られた。

各授業のあとに記入している自己評価カードから、この活動に対する生徒の授業内容の理解に関

する自己評価は表2のようになった。

表2 第1次2時間目の授業の自己評価

評価基準	人数	割合
S 友達に説明できる	12	30%
A 自分では納得	24	60%
B なんとか理解	2	5%
C ピンチ!	2	5%

この結果から多くの生徒が授業内容を理解していることが分かる。

また、同カードには以下のような感想が書かれており、この活動を肯定的にとらえている生徒や自分の間違いに気が付くことができたという意見が多かった。

- ・～ing やこれまでに習ったことを応用することができた。
- ・～ing を使いながら場面を表すことができた。いろいろな言葉の使い方があったと知れました。
- ・もっといろいろな単語を知って、いろいろなパターンの会話文が作れるようになりたい。
- ・どうやったら会話がつながるか考えるのが難しかった。絵を見て、この人はどんなことが言いたいのかとかを聞いて、自分なりに書くことができ、～ing の使い方も分かったので良かった。
- ・～ing の付け方を間違えてしまった。
- ・自分で考えると難しかったけど、ペアの人と確認したりして、会話の意味もよくわかりました。ルールを意識して新しく習った単語も使いこなせました。

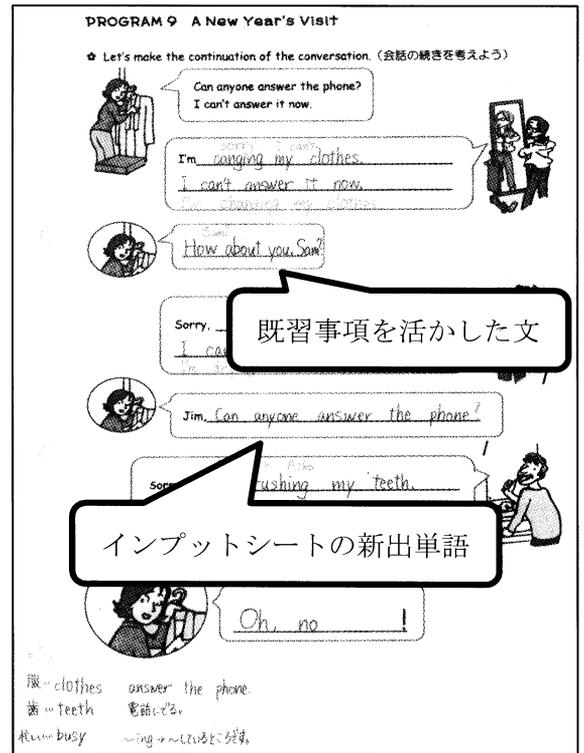


図2-1 教科書の挿絵から作った会話文



図2-2 教科書の挿絵から作った会話文

## ② グループ活動

第4次の紹介文づくりでは、まず1人ひとりが学校生活の中から紹介したい場面を考え、グループで1つの場面を選択していった。表3にはグループごとの紹介場面をまとめた。

表3 生徒が選んだ英文で紹介したい場面

グループ	表現したい場面
1	文化祭でのダンス演技
2	合宿でのグループワーク登山
3	運動会での学級対抗リレー
4	合宿での飯盒炊飯
5	ソフトテニス部の部活動
6	運動会での学年種目競技
7	女子バスケットボール部の部活動
8	英語の授業
9	陸上部の部活動
10	男子バスケットボール部の部活動

写真についてそれぞれ英文を考える前に、まず、間違いやすい例について、スクリーンに英文を写して共有した。

What is the mistake?

**He reading a book.**

×

**He is reading a book.**

What is the mistake?

**They are runing.**

×

**They are running.**

図3 間違いやすい個所の共有に使ったスライド

次に、この場面の写真を1人1枚ずつプリントアウトし、初めに個人でどのような英文が書けるか、アイデアの産出を口頭で行わせた。

次に、まとまりのある英文を作っていくために、図のように、文の順序や前後関係を考える時間を設け、写真について説明するときにはどのような順で事柄を説明していけばよいのか全員で考えさせた。

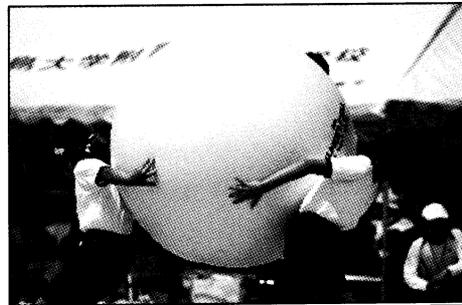
Bad	Good
<p>This boy <b>写真から分かる事柄</b> rice.</p> <p><b>文の順序</b> are in Sambe.</p> <p>This is a picture of our camping.</p> <p>This girl is eating french fries. <b>前後関係</b></p> <p>We have the camping in July in our school. <b>写真からはわかるが知っている情報</b></p>	<p>This is a picture of our camping.</p> <p>The students are in Sambe.</p> <p>This girl is eating French fries.</p> <p>This boy is eating curry and rice.</p> <p>We have the camping in July in our school.</p>

図4 文の順序を考えるスライド

### ③ピア・フィードバック

グループで作った英文を他のグループと共有し意見を交換し合う時間を設定した。各グループにフィードバックシートを配布し、他の班の英文を聞いて良いところとアドバイスを記入させた。生徒たちは以下のような記述が見られた。英文の正しさについてや、相手への伝え方について、英文の内容についてなどの内容を書くことができた。

- ・ ~ing や三単現の s を使えていた。
- ・ be 動詞を忘れずに使えていた。
- ・ 指をさしながら伝えられるとよりよい。
- ・ いくつかある行事なのかも加えるといいと思う。



Group 6512

Make 5 sentences or more about the pictures.

---

This is a picture of our sport day.

---

The students are on the ground.

---

They are carrying a big ball.

---

is now the sport day is over in our school.

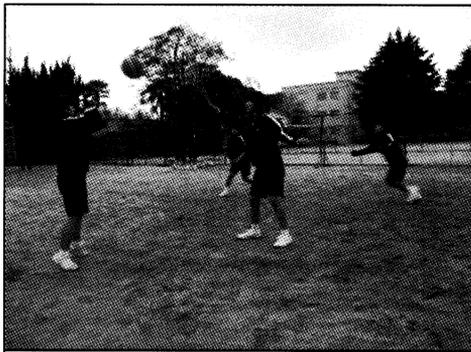
---

we practice hard for it.

---

This game is fun.

図5-1 生徒がグループで書いた英文の例



Make 5 sentences or more about the pictures.	Group 7
<p>This is picture of our basketball club</p> <p>They are playing basketball on the ground</p> <p>This girl is throwing a ball for that girl</p> <p>This girl is running</p> <p>They are practicing for the tournament</p>	

図5-2 生徒がグループで書いた英文の例

英語を話すことは好きですか。

【実施前】62.5% → 【実施後】72.5%

#### 4 考察

成果としては、本単元が終了後にとったアンケートで、「話すこと」についての肯定的数値が上昇したことである。これは、各授業の始めに英文を多量に生産することを繰り返し行ったこととグループで発表に向けての確認を十分に行ったことからであると考えられる。グループで行った第4次の活動では、生徒達は楽しく協働して写真を選んだり、発表の準備を行ったりすることができた。自分たちの普段の生活をALTに英語で伝えるという課題設定が有効であったと言える。

一方で課題としては、課題を設定する際に十分に配慮しなければ、現在進行形ではなく、思い出話の過去形になってしまうことである。この課題を解決するためには、あくまで「普段の学校での姿を紹介する」ことに重点を置き、自分たちの体験談ではなく、写真の人物について単純に描写することを意識させる必要がある。

生徒たちの周りにあふれる授業に使うことのできるたくさんの題材は、学習したい文法と多く関連付けて課題設定することができる。これからも、身近な題材を使いながら英語で表現できる新しい課題を見つけていきたい。

<注および引用文献>

- 1) 中央教育審議会：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」、2016
- 2) 広島大学附属三原学校園：平成28年 第19回 幼小中一貫研究大会，外国語活動・英語科研究構想～通教科的能力と関連的に育む外国語活動・英語科の本質に根差した資質・能力～，p. 55-56, 2016
- 3) 開隆堂：「SUNSHINE ENGLISH COURSE 1」, pp. 90-95, 2016,

#### ④ 発表

ピア・フィードバック後にさらに教師が英文をチェックし、グループごとにALTに向けて発表を行った。各班が順番に前に出て、スクリーンに映した写真について英語でプレゼンテーションを行った。

### 3 結果

単元実施後に行ったアンケートからは以下のような結果が得られた。

Program9の単元で行った学校紹介について、班で1つの成果物を作り、発表することは好きですか。	肯定的回答…73%
Program9の単元で行ったフィードバックについて、他の班の発表を聞いてアドバイスをする活動は、自分の発表や英語の理解に役立ちましたか。	肯定的回答…85%

また、単元実施前のアンケートで低かった項目について、実施後には次の結果が得られた。